幼兒教育　第十九卷第五號　大正八年五月一日發行

子供の理論と正義

東京女子高等師範學校教授　下田次郎

○子供の頭腦は理論的

子供の頭腦は非常に論理的なものである。理屈のあはない事は大嫌である。それで、大人が云つたり行つたりする事が以前のそれと理屈があはないとそれを、訝りとがめる事がある。所が、大人は、社會生活、殊に日本の非論理的な社會生活に馴れて來て居るから、子供の前でも無意識に條道の徹底しない、前後矛盾の事をして顧ず、反つて子供にとがめられて、氣のつく樣な事がある。それで大人は、常にこの點に注意して子供に對しては成るべく、論理的に云つたり、行つたりする樣にしたいと思ふのである。

○先づ國語の改良を

一體日本人の頭腦が非論理的であるのは第一に國語の性質が與つて最も力があると思ふ。日本語は例外が非常に多く、音でも訓でも、意味でも種々で論理的に律する事の出來ないものが非常に多い。日本語は到底、科學語として適當なものではない、これを佛語、獨乙語などと比すれば非常にルーズなものである、かゝる言葉を大人が話して居りそれを子供が困難しながらもならつて話すので、折角子供に生れついた論理的の頭が一つは國

語のために、こわされてしまふのである。それで日本人の頭腦を論理的にするには國語の改良をはかつて、一層簡單にし、統一されたものとする必要がある。

今日の狀態では、子供の折角の持つて生れた論理的頭腦を大人が小さい時からこはして行く樣なものである。

○おやつの分配は

次に子供は正義の念のつよいもので、公平と云ふ事を望むものである。それで大人の仕打に偏頗不公平があると非常に憤慨する。例へば菓子にしても兄弟の一人が貰へば、他のものがそれと同じものを同じほど貰ふ事を待ち設ける、それで、おやつをやるにしても余程分配法に注意せねばならず、土產を買つて來るにもよく考へねばならぬ、違つたものをそれ〴〵に買つて來ると、その間に價値の差等をおいて、折角やつても不平を云ふ事があるから、時には、三人なら三人の子に同じものを三通り買つて來る方がよい事がある、尤も、少し大きくなれば、年齡、男女の相違に由つて、區別を是認する樣になるが、初めは、そうは行かない。それで大人はこの子供の正義の念をつよめ養ふ事を努めねばならぬ。

大人は、社會生活をする中に何時の間にか情實にとらはれ、不公平な事をして顧ない樣な事になつて居る事がある。子供の方が余程正義とか公平とか云ふ事については敏感であるから、大人は折角のそれを鈍らさない樣に自らそれを實行して見せ、また、子供の行爲を、常に、かくあらしむる樣に仕向ける必要があると思ふ。

○教育は子供を損はぬ樣

教育と云へば通例大人の方が上で既に出來上つて居るから、下のまだ出來上つてゐない子供を大人の標準に引き上げるものの樣に考へてゐるが、

時には子供が大人より反つて上で、大人の樣になつては困る、寧ろ子供の持つて居るものを壞さない樣にもり立てゝ行く方がよい事もある。思ふに正義の念の如きは、それであろう。

論理的頭腦のごときも教育によつて發達せしむる事は出來るが同時に大人ほどに非論理的部分を多くしたくないと思ふのである。その限りに於ては、また子供の持つて居るものを損ねない事が教育であると云へると思ふのである。

（談話筆記……文責記者）

春の日の入りどころなり藤の花

（一茶）

三尺に
たらぬ幟の
お客かな

とつときに
金太郎するや
幟かな

我門を
山へ出て見る
幟かな

（一茶）